

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和4年6月6日

作成者：近沢 幸治郎

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的な数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
CoCoCara	
事業名	日時(期間), 場所
日本語および教科学習支援	2021年4月～2022年3月 ① 浜脇公民館、② 高須西小学校、 ③ ぽっかぽか、④ リードあしや
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数(延べ)
<ul style="list-style-type: none">・外国にルーツを持つ大人・子ども向け日本語支援教室を企画・運営・西宮3か所、芦屋1か所で教室を開催。年間総開催日数は115日・団体用HPで参加者を募り、チラシを作り市内の公民館等に配架。・外国人が良く使うSNSの1種「Meetup」で教室開催案内公開。・教室毎にSNSで運営情報を共有して参加者数に応じ柔軟に対応。・日本語検定受験者の力に合わせた学習カリキュラムの準備・実践。・日本語検定受験者向けの限定直前模擬試験オンライン教室の実施。・瓦木小学校近隣の支援者の開拓(親やPTAに問合せ)。	(大人:123)人 (子ども:197)人
	参加者数(延べ)
	(大人:610)人 (子ども:197)人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
<ul style="list-style-type: none">・日本語での意思疎通に困っている大人の日本語能力向上に寄与した。・親の就労や勉強のため日本に帯同した子どもたちは日本語がわからず精神的に不安定になることもある。子ども教室は、普段表情を失くしている子どもたちが見違えるように元気や笑顔を取り戻す子どもの居場所であるとともに、学校との「繋ぎ」にもなっている。・芦屋での活動は、リードあしや教室の大人参加者のうち2名が日本語検定試験(JLPT)を受験。熱心な支援ボランティアの指導で全員合格を果たし、就職に繋がった。	
今後の展望(どのように継続, 発展するか)	
20年度に引き続き21年度もCOVID-19の感染防止のため活動制限を経験したが、芦屋の教室ではオンラインツールを活用して学習の遅延を軽減できた。一方、定常的に活動していただけのボランティアさんが21年度末から家庭や仕事の都合等で半減。年間通じて募集しており、4月から学生ボランティアさんの見学が増えており、見学時に一緒に学習者を支援するボランティア疑似体験を通じて登録に向けて参加動機アップにつなげていきたい。22年度は仕事や学業を持ちながらでも学習したいという受講者の希望にも応えられるように芦屋地区に土曜・日曜日も開設できる教室を試行しながら、今まで以上に活動の幅を広げたい。	